

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2008年1月号 (<http://www2.iee.or.jp/~ias/kiji2007.htm>)

「産業応用部門の編修広報委員会」



電気学会産業応用部門編修広報委員会委員長
清水 敏久〔首都大学東京〕

平成19年6月から2年の任期で産業応用部門の副部門長を仰せつかりました。任期中年度は部門編修広報委員長を担当させていただきます。編修広報委員長がニュースレターの巻頭言を執筆するのは恒例ですが、ニュースレターについては昨年10月号で一足先に抱負を述べさせていただきましたので、ここでは部門編修広報とその関連事項について考えてみたいと思います。

第一は、電気学会・産業応用部門としての学術・技術情報の発信のありかたです。産業応用部門の会員諸氏の学術研究や技術開発の成果は、これまでも海外から高い評価を受けてきたことは誠に誇らしいことですが、今後はその情報をインターネットを最大限に活用して迅速かつ広範に発信することが強く求められています。いまや学術情報はもとより多くの書籍情報もネット検索を経て入手するのが当然になりましたが、電気学会で発表した論文や技術報告はこれまではネット検索はできない状態でした。一方でIEEEでは既にXploreを導入し、優れた論文を世界にサーキュレートさせることに大きな成果を挙げています。電気学会・産業応用部門の論文や研究会資料はそのほとんどが和文論文ですからXploreのような世界的サーキュレーションは望めませんが、少なくとも学術情報という貴重な学会資産を誰もが容易に検索できるようにすることは、会員諸氏の利便性の増加に加えて多くの仲間（会員）を増やすことにつながる喫緊の課題でした。幸い、昨年10月から電気学会電子図書館が運用を始め、全国大会、部門大会、研究会論文、技術報告書についてネット検索とインターネット経由のオンデマンド購入ができるようになりました。会員は低廉な会員価格で購入できるメリットがあります。残念ながら、当初のシステムは開発予算の都合上、支払い方法や販売文献の種類に制約が残っていますが、販売実績が増えれば更なる改良が加えられるものと考えます。編修広報委員会としても、会員各位に情報を提供し、システムの一層の充実に向けて積極的に関わってゆきたいと思っております。

第二は、部門運営状況の積極的な公開です。ニュースレターでも度々紹介されていますが、産業応用部門は種々の改革に取り組み多くの成果を挙げつつあります。しかし、会員諸氏にはまだまだ解りにくいところもあるのではないかと想像しています。そこで、産業応用部門の運営状況や改革の将来展望についてこれまで以上に積極的に情報発信してゆきたいと考えています。国際化の推進がなぜ必要なのか？ 論文誌掲載料の低廉化・無料化はできるのか？ IEEEとの連携とはどのようなことか？ などについて会員諸氏に正しく把握していただき、各位の意見を拝聴し、知恵を結集して改革に取り組む必要があります。「学会・部門は何をやっているのか？」と懐疑的にならずに、斉藤部門長が就任のご挨拶で述べられていた「ものを言う株主」として大いに学会活動に参画していただくことが、詰まるどころ、学会の将来を開き会員諸氏の満足につながるものと考えます。

第三は、上記のプラットフォームとも言うべき、部門のホームページの一層の充実です。電気学会のホームページも種々の改良が加えられ標準フォーマットが完成しました。産業応用部門のホームページも早急にこれに移行するとともに、英文化対応なども急ぐ必要があります。また、ホームページを会員各位に効果的に利用していただく仕組みも再考したいと思います。例えば「会員の声」は実質的に消滅していますが、例えば会員アンケートなどのインタラクティブな機能を加えて積極的に会員諸氏の意見や評価を集約できないものでしょうか？ 若手会員の方々が意見を出しやすいように敷居を低くする工夫も必要ではないかと思っております。

産業応用部門は新しい時代に向けて大きく動き出しています。このようなダイナミックな時期に会員諸氏への情報提供を担う編修広報委員会の役割はますます重要になっていると痛感しています。産業応用部門会員の皆様のご理解・ご支援を賜りますようお願いいたします。